

## 富士が見たい

富士山・・・私はほんとうに富士が好きなのです。

新幹線に乗っていて近づくと、そろそろ見えるかな、と身構えます。

窓の『このあたり』と思っているよりずっと高いところに、雄大な富士が姿を現すと、もう、感激です。

信州に向かう途中、小淵沢駅のホームから、雲海の上にポコンとひとつだけ頭を出している富士を見たときもそうでした。

ああ、あんなに大きいのだと。

西伊豆の山道をバスで土肥方面に向かってっていると、前方に富士が見えたり隠れたりしながら、近づいてくるのです。ずっと目が離せませんでした。

今までの眺めで随一だと思うのは、20代半ば、夕刻に福岡行きの飛行機の中から見た富士です。茜色に染まった雲海に浮かんで、この世のものとは思えない美しさでした。

火口の真上を飛んだこともあります。雪がほとんどない季節で、想像していたより幾回りも大きくて壮観でした。

☆

首都圏に転勤してきたあと、平成11年からは、年に1～2回、福岡に行くようになりました。親友が夫に先立たれ、慰問兼家政婦です。余裕があれば、昼間の便に乗ることもありました。

そんなとき、「富士山が見える側」と言って、往きは右、帰りは左の座席を指定してじっと眺めているのですが、見えたためしがないのです。

そういえば、その昔、夏は河口湖、冬は山中湖に富士を眺めに行ったのに、目の前にそびえているはずの富士は、霧と雪に閉ざされて、全く見えなかったことがあります。

富士は私の片思い、嫌われているのかもしれないとひがみました。

平成19年の中学の同窓会するとき、福岡の実家にちよくちよく帰るという友達が「富士が見えるのは左側。」と言うのです。羽田を離陸したら、富士山の右手に回って山側の進路をとるのだと。

エ～、そんなア。ネットで座席指定をするとき、半信半疑で予約センターに電話しました。しばらく調べている様子でしたが、「左側の窓です。」

いつ、そうなったのかしらん。私はどれだけムダな努力をしていたのかしらん。

だまされたつもりで往きに左側の窓際にしたら、見事に見えました。曇った日でしたが、青いシルエットの富士はやはり雄大でした。

☆

その後大分に出かけたときのこと、往きは富士山の真上を通過するということなので、左窓際を取ったのですが、全然見えませんでした。意地悪をして、この時は富士の左脇を飛んだのでしょうか。

帰りはわずか150人乗りの小型機。窓際は取れなかったので、左側の真ん中、6Bにしました。結構雲の切れ間が多いので、期待しながらずっと見ていたけれど、ダメでした。

羽田に着く直前に気付きました。私は右側真ん中の6Eに座っていたのです。多分、間違えたのは私。本来私の席に座るはずだった人は、同じ真ん中だからと、とがめなかったのでしょうか・・・

極め付きは神戸に出張した時。事前に食事をする暇がなくて、新幹線でお弁当をひろげる羽目に。知らない人の隣は何となく気詰まりで、そそくさとすませました。

アッと思ったのはその直後です。

雲ひとつなかったその日、窓からは、富士の雄大な姿が見られたのに違いありません。



羽田から福岡に向かう機内で見た、富士のシルエット



自宅ベランダから、丹沢山塊の上に見える山頂付近



相模原市富士見町からの富士。山並みが凹んだところに..